

DISASTER-PREVENTION-HELIPORT

災害からヘリコプターを守り、迅速な出動を可能にする

災害対応ヘリポート

DISASTER-PREVENTION-HELIPORT



エアロファシリティ株式会社

開発ストーリー

1995年1月17日、神戸を襲った阪神・淡路大震災は、街を破壊し、多くの尊い命を奪いました。当時、神戸ヘリポートを視察した当社創業者は、液状化現象で泥沼化したエプロンや、建物の歪みによりシャッターが開かず、機体が無事であっても出動できない現実を目の当たりにしました。この震災では、ヘリコプターによる救助がわずか1名にとどまり、「ヘリコプターの活用」が課題として浮き彫りになりました。

この大震災の教訓は、後の東日本大震災や能登半島地震で活かされ、ヘリコプターが重要な救命手段として活躍しました。「災害対応ヘリポート」は、この大震災で得た教訓と、「災害時に機能しないヘリポートを造ってはならない」という信念のもとに生まれました。災害時に命を守るための重要なインフラとして、私たちの社会への想いを体現する存在です。

シートシャッター

迅速な出動をサポート

課題 ・災害によりシャッターが開かず、出動できなかった。

対策 ・重量シャッターより高い耐風性能。
 ・従来比 1.5~2 倍の開閉速度で、迅速な出動を可能に。
 ・戸袋が不要のためスペースの有効活用にも。
 ・半透明シートの採用で格納庫内の採光性アップ。



ストライプフロア

効率的な機体格納をサポート

課題 ・機体格納時、正確な誘導が難しい。
 ・機体の定位置が分かりづらい。

対策 ・ストライプが目印となり機体誘導を効率化し、他の機体や壁への接触防止に。



耐震エプロン

液状化による地盤沈下を軽減

課題 ・地震によって格納庫とエプロンの間に大きな段差・裂け目が生じ、救助出動できなかった。

対策 ・格納庫床面とエプロン路面を「踏みかけ板」で一体構造にすることで、地震による液状化現象の影響を軽減し、格納庫前エリアからヘリコプターの離陸が可能に。



在来工法
 格納庫床面とエプロン路面は別構造。段差が生じ、ヘリの搬出不可に...



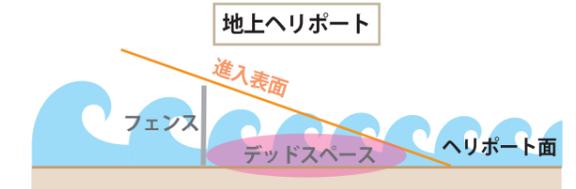
耐震エプロン
 格納庫床面とエプロン路面が一体。段差が生じないためヘリを搬出可能!

嵩上げ盛土基盤

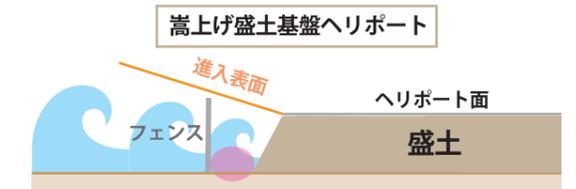
浸水被害とデッドスペースを最小化

課題 ・河川の堤防の決壊や、台風・満潮による浸水によって機体が損傷した。
 ・敷地のスペースを有効活用したい。

対策 ・ヘリポート面を嵩上げし浸水を防ぐ。
 ・盛土によって飛行障害物をかわすことができ、デッドスペースを最小に。



地上ヘリポート
 盛土なしは浸水の危険性があり、さらに余分な敷地も必要



嵩上げ盛土基盤ヘリポート
 盛土があると浸水が防げ、デッドスペースも最小限に



© 2024 米田堅持



© 2024 米田堅持

海上保安庁初の ヘリコプター集約整備センター

2024年10月1日から業務を開始した海上保安庁 七ツ島運航支援センターは、尖閣諸島周辺の領海警備体制強化や、大規模災害および海難事故対応の拠点として重要な役割を担っています。

大型ヘリコプターが2機駐機できる離発着場を備えており、ヘリコプター搭載型巡視船（PLH）を介さず迅速な派遣が可能となっています。また、海上保安庁最大規模の格納庫を持ち、大型ヘリコプター「スーパーピューマ」4機を格納した状態でも広々としたスペースを有しています。

当社は、この施設において全体の基本構想から、給油施設設計、シートシャッター工事、航空コンサルティング、ストライプ塗装の設計コンサルティングに関わり、安全な運用を支援するとともに、運航効率を向上させるインフラを提供しています。

写真提供：写真家 / 海上保安ジャーナリスト 米田 堅持



関連書籍 紹介



『新・ヘリポートの造り方』

ヘリコプターの安全運航に欠かせないヘリポート。そのあるべき姿を提示し、造り方を詳説します。



『塞翁が空』

弊社の設立秘話を漫画にしました！航空業界に関わる方々、勿論そうでない方にも興味深く読んでいただける物語です。

